

県育成リンゴ品種「ぐんま名月」の 収穫適期判定用カラーチャート

研究のねらい

群馬県育成リンゴ品種「ぐんま名月」では、収穫適期の判定が難しく、完全に成熟していない果実を販売する事例が見受けられます。また収穫適期を判定するための基準が確立されておらず、収穫は各生産者の経験によって行われている現状にあります。そこで、果皮色によって収穫適期を判定できるカラーチャートを作成しました。

技術の特徴

- 1 満開後170日が経過し、収穫時期に至った果実について、肩部（こうあ部周辺）と尻部（がくあ部周辺）の両方の果皮色をカラーチャートで比色します（写真1、写真2）。
- 2 比色の際には、果実の日光にあたっていない部分の果皮色で判定します（写真2）。
- 3 肩部、尻部両方の果皮チャート値を測定し、どちらかが地色6以上となった果実を選ぶと、食味が良く、糖度が15%以上の蜜入り良好な果実が収穫できます（図）。

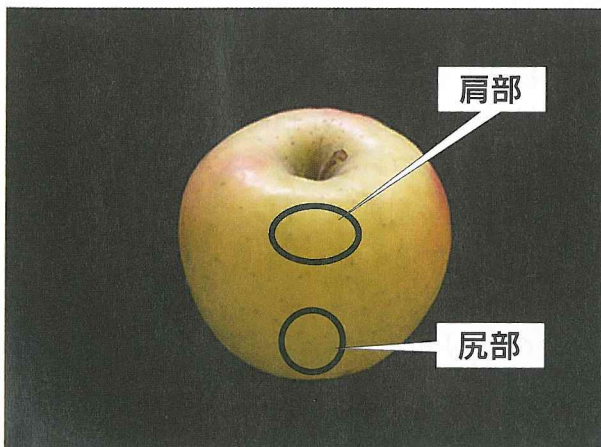


写真1 リンゴ果実の肩部と尻部

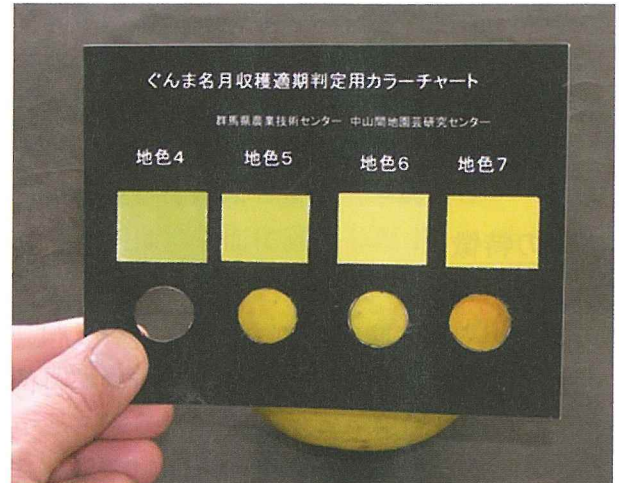


写真2 チャート値の決定方法

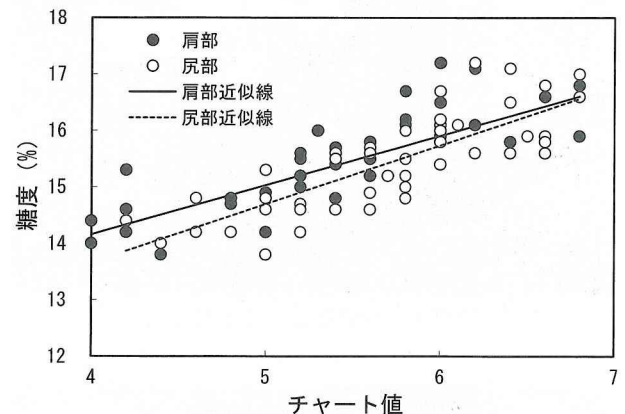


図 チャート値と糖度の相関関係

今後の取り組み

フォローアップセミナーなどを通じて成果を公表し、カラーチャートの使用方法を周知していきたいと考えています。また、今後も県育成品種の安定生産技術確立に取り組んでいきます。

（執筆者：荒木 智哉）